

PROGRAM NOTE

2009

近藤 譲：表面、奥行き、色彩

12 楽器のための

Surface, Depth and Colour

For 12 instruments (fl, ob, cl, bsn, tromb, perc, pf, 2vn, va, vc, cb)

1970 年代の初め頃以来、私の作曲は、ほぼ一貫して、「線の音楽」と私自身が名付けた概念を中心に展開されてきた。「線の音楽」とは、基本的に一本の旋律線だけから成る音楽である。尤も、この《表面、奥行き、色彩》を含めた私の近年の作品は、初期の曲に比較すると、響きの厚みが増している。この響きの厚みは、基本となる旋律線に和音を付けたことから齎されている。とはいえ、こうした和音付けは、旋律線を構造的に支える役割を担う伝統的な意味での「和声」とは異なって、単に、旋律線を構成する一つ一つの音に和音の色彩を与えた結果であるに過ぎず、それ以上の構造的な意味合いはない。こうした色彩付けによって、かつての「線の音楽」の特徴であった鉛筆書きのように細い線が、筆書きのような太い線に取って代わったわけである。和音の色彩を纏ったこの太い線は、何の構造的な支えもなしに、只管うねうねと漂い行く。それは謂わば、構造的な（即ち、空間的な）奥行きをもたない音楽の「表面」を形成している。ちょうど、遠近法的空間表現を含まずに二次元的な平面性に徹した日本の伝統的な絵画のように、この奥行きのない音楽的「表面」は、それを鑑賞する人に、その表面の背後に広がっているであろう無限の空間を感じさせはしないだろうか。

《表面、奥行き、色彩》は、2009 年に、オランダのアイヴズ・アンサンブルからの委嘱で作曲、同年 4 月に、同アンサンブルによってオランダのティルブルクで初演された。

近藤 譲

初演：2009 年 4 月 21 日(ティルブルク市、オランダ Tilburg, The Netherlands)

初演者：Ives Ensemble (The Netherlands)

委嘱：Ives Ensemble (The Netherlands)

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-93

演奏時間：13 分